

# 2024年環境レポート

## 会社の取り組みの紹介

当社は、1918年の創業以来、畜産業や水産業の副産物であるコラーゲン素材を活かし、食品、健康・美容及び医療の分野へと有益なタンパク質を供給し、より豊かな生活の実現と、人々の健康寿命の延伸に寄与することを目標としています。主力製品であるゼラチン、コラーゲンペプチドの製造には、多くの水資源、エネルギーを必要とするため、原料調達から生産・リサイクルまでの循環型ビジネスモデルを構築し、エネルギーの効率的利用やCO2排出量削減、水資源使用量の削減に取り組んでいます。

また、2023年度はサプライチェーン全体を把握するため、GHGのスコープ3 排出量算出、ゼラチンのライフサイクルアセスメントを実施しました。これからも、社会、地域、そして当社グループで働く全ての人々に配慮した事業活動を通じ、持続的発展が可能な社会の実現に貢献してまいります。

## 環境方針

### 安全・環境方針

私たちは、社会、地域そして当社グループで働く全ての人々のために、環境、健康、安全に配慮した事業活動を行い、持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

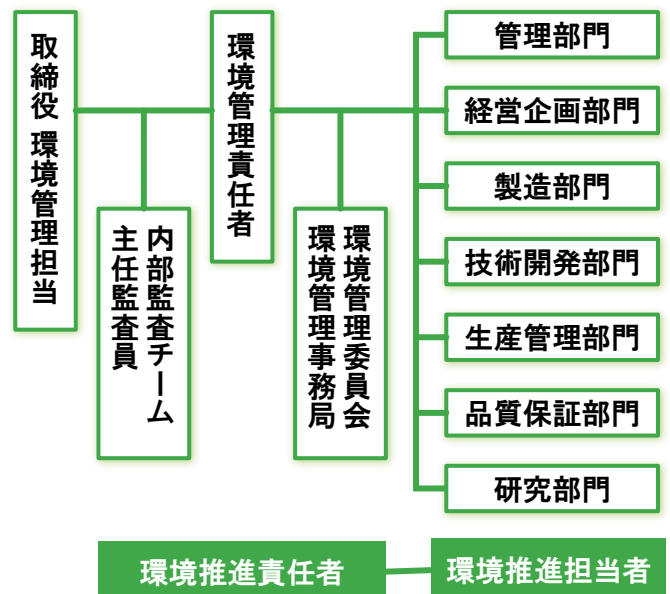
- 関連する諸法令を順守し、環境の保全、健康・安全の確保に取り組めます。
- 事業活動が、環境、健康、安全に及ぼす影響を評価し、目標を定めて改善に取り組めます。
- 当社グループで働く全ての人々に、安全・環境方針の周知徹底を行い、意識の向上に取り組めます。

## 推進体制

本社・大阪工場では、経営層(環境管理担当)、環境管理責任者、各部門長である環境推進責任者と主任監査員及び環境管理事務局から構成される「環境管理委員会」を四半期毎に開催しています。環境目標の進捗管理等、環境マネジメントシステムの運用状況については、同委員会で報告・協議し、方針決定いたします。

毎月各部署で収集される環境パフォーマンスは環境管理事務局で集約管理し、必要に応じて環境管理責任者が対応策を検討いたします。

マネジメントシステム全体の監視は内部監査チームが行っておりますが、構成監査員は適宜新しい要員と交代し、新たな視点と広い視野をもって取り組むよう努めています。



# 環境マネジメントシステムの取り組み

本社・当社は、1999年にISO14001認証を取得して以来、環境マネジメントシステム（EMS）を構築・運用し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

環境担当取締役を委員長とする「環境管理委員会」を四半期毎に開催し、環境目標の進捗管理、EMSの運用状況の確認、環境関連法規制の遵守状況の確認などを行っています。

## 1. 本社・大阪工場 ISO の歴史

- 1997年 環境マネジメントシステム(EMS)導入を決定
- 1998年 9月 環境管理委員会発足、EMS運用開始
- 1999年12月 ISO14001：1996 認証取得  
(審査機関：一般財団法人日本品質保証機構)
- 2005年12月 ISO14001：2004 へ移行
- 2017年12月 ISO14001：2015 へ移行
- 2023年11月 更新審査を受け、認証を更新

## 2. 本社・大阪工場 EMS 適用範囲

登録活動事業者:新田ゼラチン株式会社 本社・大阪工場

所在地:大阪府八尾市二俣2-22

登録活動範囲:1. 下記製品の製造

- 1) 食用、医薬用、写真用ゼラチン
  - 2) 化粧品用、生体材料用、生化学用コラーゲン
- 2.ゼラチン、コラーゲンの研究開発



登録証番号：JQA-EM0675

登録事業者：  
新田ゼラチン株式会社  
本社・大阪工場  
大阪府八尾市二俣2-22

当機構は、上記事業者の環境マネジメントシステムを審査した結果、付属書に記載する範囲において、下記規格の要求事項に適合していることを証します。

ISO 14001 :2015 / JIS Q 14001 :2015

登録日：1999年12月28日  
登録更新日：2020年12月28日

有効期限：2023年12月27日

本登録証の有効性は、当機構までお問い合わせの上、確認することができます。

一般財団法人 日本品質保証機構  
東京都千代田区相模町山手1-2-5  
理事長 小林 憲明

本証には付属書がありますので、合わせてご覧ください。



20.06 D79C1177

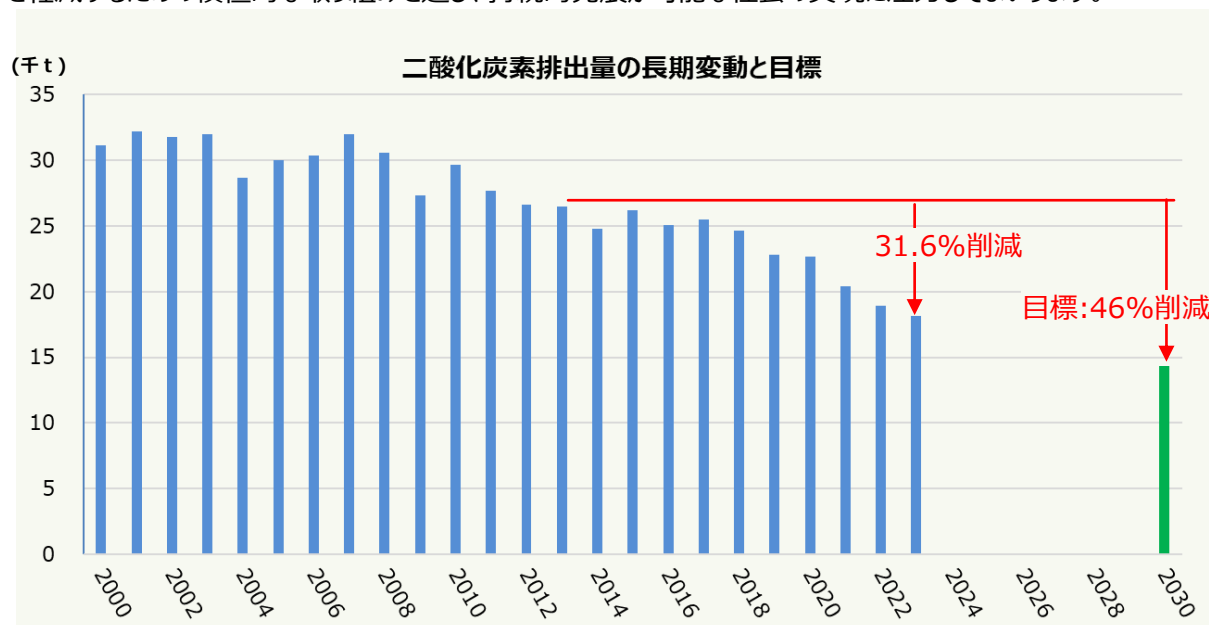
## 温室効果ガスの削減に関する基本方針

当社は、生産段階における二酸化炭素削減に関する基本方針として、2030年度までに2013年度対比46%削減、2050年度までに「カーボンニュートラル実現」を目指して、取り組みを推進します。

## 二酸化炭素排出削減の取り組み

当社は1918年の創業以来、地域社会の一員として環境に配慮した生産活動を行ってきました。各製品の生産にあたっては、多量の水資源・エネルギーを必要とするため、従来から二酸化炭素削減・省エネ・水資源削減等、積極的かつ継続的に取り組み、過去22年間(2001年度比)で約44%の二酸化炭素排出量削減を実現しました。

2023年度は再生可能エネルギー由来の電力への切り替えが通年で寄与したこと等により、2013年度対比31.6%の削減を達成しました。世界的に地球温暖化等の気候変動に伴う様々な問題が深刻化する中で、あらゆる企業が今後ますます環境に配慮した事業活動への取り組みを求められています。当社はこれからも環境負荷を軽減するための積極的な取り組みを通じ、持続的発展が可能な社会の実現に注力してまいります。



### 近年の主な取り組み

- 2012年 高効率型濃縮機導入による省エネ・二酸化炭素削減
- 2013年 高効率型濃縮機の安定稼働
- 2014年 コージェネ排熱回収設備の導入
- 2016年 排水処理施設への負荷低減対策と大規模保全工事を実施
- 2017年 排水処理施設の改良を継続  
冷温水機の第一期更新と運転最適化
- 2018年 新原料対応設備の設置完了  
排水処理施設への負荷低減に伴う省エネ効果確認  
コージェネ発電機更新及び排熱回収設備の移設  
冷温水機の第二期更新
- 2019年 冷温水機の第三期更新(全台更新完了)
- 2020年 ボイラー更新による熱効率アップ  
乾燥機の排熱回収
- 2021年 排水処理の負荷低減対策に着手(2024年度完了予定)
- 2022年 大阪工場の電力の大半を再生可能エネルギー由来に変更
- 2023年 GHG排出量の包括的分析を実施

# 気候変動への対応強化

## GHG排出量の包括的分析

当社は、気候変動問題への対応を強化するため、2023年度にGHG排出量(2022年度実績データに基づく)の包括的な分析を実施しました。

スコープ1排出量(直接排出)は18,561トン(前年比+6.5%)、スコープ2排出量(間接排出)は391トン(前年比-86.9%)となりました。スコープ2排出量の大幅な削減は、2022年度に大阪工場の電力を再生可能エネルギー由来電力に切り替えたことによるものです。

スコープ3排出量(その他の間接排出)については、サプライチェーン全体のGHG排出量を、15のカテゴリーに分類して算定を行いました。その結果、以下のようなことを認識できました。

- 購入した原材料の製造段階における排出量が最も大きな割合を占めること
- 原材料の輸送段階での排出量も相当程度存在すること

## ゼラチン製品のLCA分析

当社は、2023年度にゼラチン製品のライフサイクルアセスメント(LCA)を実施し、原料調達から製造、出荷までの各段階における環境負荷を分析しました(2022年度実績データに基づく)。

この結果、以下のようなことを認識できました。

- 原料調達段階：原料の製造と輸送に伴う環境負荷が大きいこと
- 製造段階：エネルギー使用、特に熱エネルギーの使用による環境負荷が大きいこと
- 排水処理段階：汚泥の処理に伴うエネルギー使用による環境負荷が発生していること

これらの分析を基に、以下のような対策を検討してまいります。

- サプライヤー行動規範に基づく、サプライヤーとの協働、モニタリング
- 排水処理設備、汚泥処理の改善

## 2023年度 環境活動実績 (2023年4月1日～2024年3月31日)

本社・大阪工場では、年間計画に基づいて環境目標を設定し、環境活動を推進しています。  
 2023年度の環境活動実績として、CO<sub>2</sub>排出量については、前年度比4.3%の削減を達成しました。  
 省エネルギーの推進については、製造エネルギー原単位で前年度比1.3%の削減を達成しました。これは、エネルギー効率の向上や設備の運用改善によるものです。  
 水資源については、取水量原単位で前年度比5.4%の削減を達成しました。製品の品質を維持しながら、取水量の削減や再利用に取り組んだ成果です。  
 廃棄物については、環境負荷の大きい埋立廃棄物の排出を抑制し、リサイクル率99.8%を達成しました。  
 紙資源の削減については、業務のペーパーレス化を積極的に推進し、前年度比6.7%の削減を達成しました。  
 その他、環境法規制順守、環境教育の推進、工場周辺の環境整備等についても、予定通り活動を実施しています。

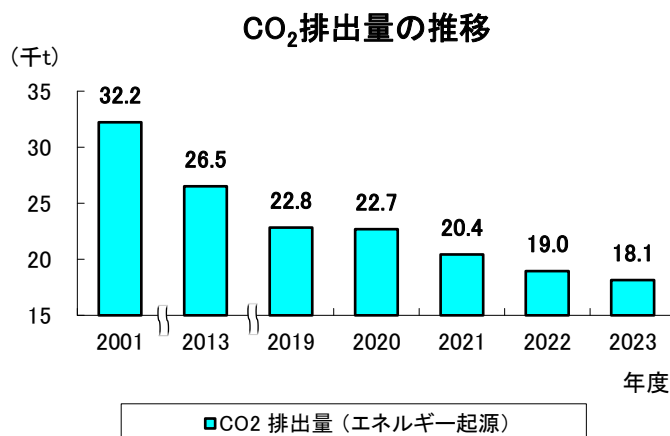
| 環境目標                  | 環境テーマ・目標値                                | 実績                  | 評価 |
|-----------------------|--|---------------------|----|
| 環境法規制順守               | 環境法規制に基づく運用管理の徹底（法順守）                    | 予定通り実施              | ○  |
|                       | 是正措置の実施                                  | 異常なし                | ○  |
|                       | 環境影響の予測                                  | 更新設備アセスメント1件実施      | ○  |
| CO <sub>2</sub> 排出量削減 | 大阪工場全体のCO <sub>2</sub> 排出量削減（前年度比0.4%削減） | 目標達成（前年度比4.3%削減）    | ○  |
| 水資源の削減                | 取水量原単位の抑制（前年度比5.0%削減）                    | 目標達成（前年度比5.4%削減）    | ○  |
| 省エネルギーの推進             | 製造エネルギー原単位の抑制（原油換算 前年度0.6%削減）            | 目標達成（前年度比1.3%削減）    | ○  |
| 廃棄物の適正処分              | 廃棄物リサイクル化の維持・管理                          | 廃棄物リサイクル率 99.8%     | ○  |
| 紙資源の削減                | コピー用紙の使用量の削減（前年度実績未達）                    | 目標達成（前年度実績から6.7%削減） | ○  |
| 環境教育の推進               | 一般教育の推進（都度）                              | 予定通り実施              | ○  |
|                       | 教育活動の推進（教育・セミナーの実施3回/年）                  | 予定通り実施              | ○  |
|                       | 指定業務教育の推進（都度）                            | 予定通り実施              | ○  |
|                       | 内部監査員教育の推進（1回/年）                         | 予定通り実施              | ○  |
| 工場周辺の環境整備             | 地域清掃の実施（2回/年）                            | 予定通り実施              | ○  |
|                       | 工場パトロールの実施（4回/年）                         | 予定通り実施              | ○  |

- ：目標達成
- △：前年実績より改善したが、目標未達
- ×：前年実績・目標ともに未達

## CO<sub>2</sub>排出量・水資源の削減と省エネ活動について

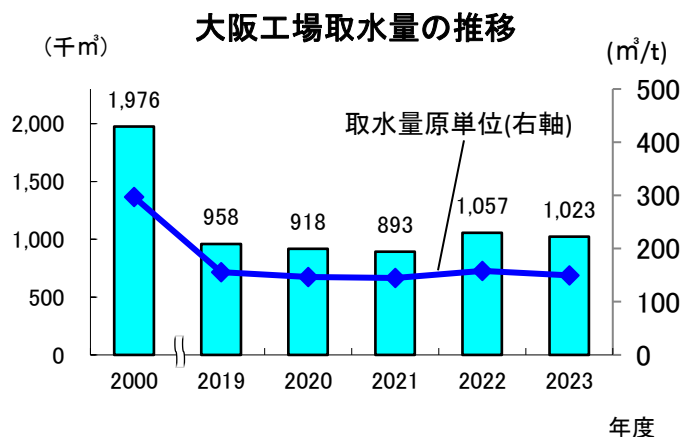
### CO<sub>2</sub>排出量削減について

2023年度は、エネルギー効率の向上や設備の運用改善に取り組み、CO<sub>2</sub>排出量は、前年度比4.3%の削減を達成しました。



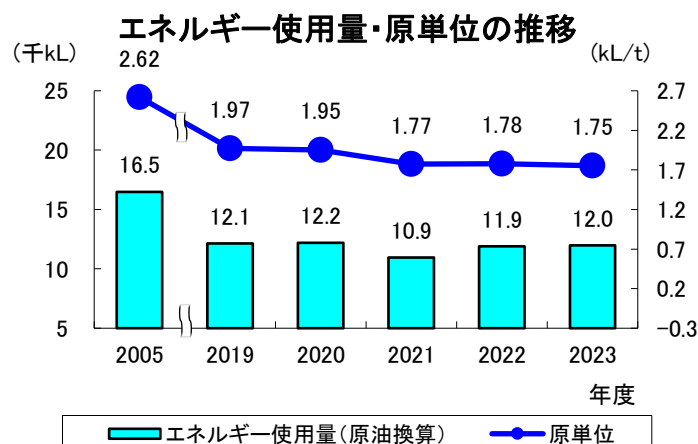
### 水資源の削減について

ゼラチンの抽出工程で多くの水資源を使用します。また、品質の維持・向上のために、設備の洗浄作業でも水を多く必要とします。2023年度は取水量原単位で前年度比5.4%の削減を達成しました。製品の品質を維持しながら、取水量の削減や再利用に取り組んだ成果です。



### 省エネルギーの推進について

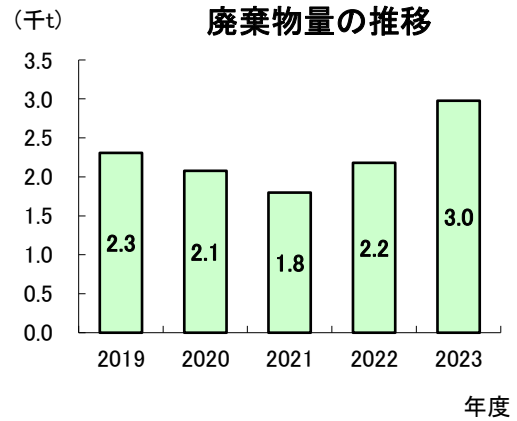
2023年度は、エネルギー効率の向上や設備の運用改善に取り組み、製造エネルギー原単位は前年度比1.3%の削減を達成しました。



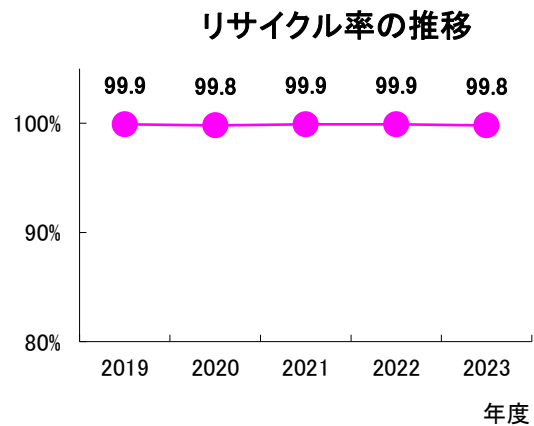
## 省資源活動（廃棄物管理・紙資源）

### 廃棄物管理について

肥料化していた排水処理工程の汚泥の一部を2023年度に廃棄物扱いに変更したため、廃棄物量が増加していますが、この増加分を削減するための設備改造を2024年度に行っており、2025年度以降は減少する予定です。

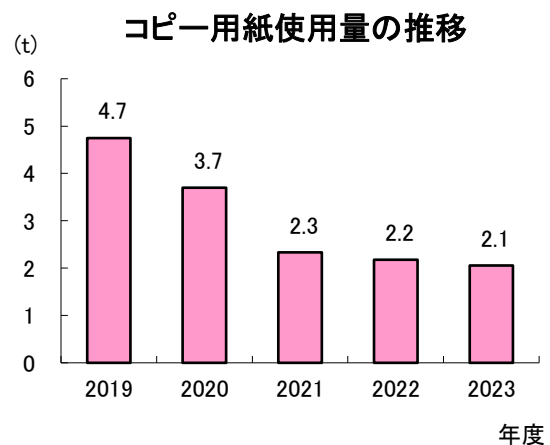


全廃棄物のリサイクル処理率(熱リサイクル含む)は99.8%で、100%に近いレベルを維持できています。



### 紙資源の削減について

2020年度より全部署でペーパーレス化を積極的に進めた結果、2023年度のコピー用紙使用量は2019年度比で半分以下に減少しています。





## 教育活動

本社・大阪工場で働く全ての従業員を対象に、新入社員教育、一般教育、推進担当者教育等を推進し、意識向上に努めています。

### 1. 環境セミナー

工場の全従業員を対象に環境一般セミナー（食品由来の廃棄物の有効活用）を動画配信形式で実施し、従業員の環境意識向上を図りました。



環境一般セミナー 資料

### 2. 地球温暖化防止に向けた改善提案

今後のさらなる二酸化炭素削減には、従業員すべての理解と取り組みが不可欠です。2021年より、「地球温暖化防止に向けた私の改善提案」を開始し、優秀事例の紹介と顕彰を通じて啓発に努めています。



優秀事例の紹介

## 緊急事態対応

### 1. 消防訓練・防災訓練・緊急事態訓練

2023年12月に消防訓練・防災訓練を行いました。

自衛消防隊の放水訓練と防災訓練では地震を想定し、避難場所の確認を、消防訓練では避難訓練を行いました。薬品漏洩等の事故・緊急事態を想定した模擬訓練を2023年12月に実施しました。

訓練では塩酸タンク点検口からの薬品漏洩を想定し、対応手順と連絡体制の確認を行いました。

他部署からも多数の従業員が見学しました。



消防訓練(2022年度)



防災訓練(2022年度)

## 企業市民としての活動

### 社会貢献活動

地域の方々との様々な関わりの中で、皆様から信頼される良き企業市民として地域社会との共生に努めています。

#### 1. ブドウ収穫ボランティア活動

大阪府の「大阪農業つなぐセンター」が創設した副業やボランティアなどで農業への参画を希望する企業と、農作業への応援を求めている農業者をマッチングする大阪府のアグリパートナー連携協定制度の「農業体験・ボランティア」分野の初事例として協定書を2021年に締結し、毎夏ブドウの収穫作業を行っています。



ブドウの収穫作業

#### 2. さくらカフェ&コーラーゲンショップ

2021年11月に、カフェを併設した当社コーラーゲン商品の売店をグラウンドに設置しました。

このカフェは近隣の皆様の憩いの場としてもご利用いただいています。



カフェを併設した売店

#### 3. 地域清掃・環境パトロール

9月に八尾市の清掃キャンペーンに合わせて工場周辺の清掃を実施し、51名の従業員が参加しました。今年度は、延べ171名の従業員が近隣の清掃作業を行いました。このほか、四半期毎に環境パトロールを年4回実施し、周辺環境美化に努めています。



工場周辺の地域清掃

#### 4. グラウンドの防災拠点としての活用

グラウンドを開放し、新入社員が植えた染井吉野と枝垂桜の花を毎年春に近隣の皆様に楽しんでいただいています。2023年3月には八尾市と災害時の拠点使用協定を締結し、緊急一時避難場所として地域の防災力強化に貢献しています。



グラウンドの桜

## 5. ニッポンバラタナゴ保全活動

地元八尾市の高安地区に生息するニッポンバラタナゴ（環境省レッドリストで「絶滅危惧IA類」に指定されている希少淡水魚）を保護するNPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会の活動に参加し、2023年10月に正式会員となりました。



発行元 : 新田ゼラチン株式会社 本社・大阪工場  
発行責任者 : 環境管理責任者 田中 琢也  
発行日 : 2024年 6月 1日  
お問合せ先 : 環境事務局(管理本部 総務部 CSRチーム)  
住所 : 〒581-0024 大阪府八尾市二俣2-22  
電話 : 072-948-7190